日教組への弾圧に思う

本所指導部　伊藤勇

見る資本主義の危機

階級闘争としてとらえ闘おう

日本独占資本と田中自民党政府の高度成長・インフレ政策のもろもろの矛盾（体制的な矛盾）の爆発の中で、七四春闘は、文字どおり「国民春闘として盛り上がり」同時に、四・一一の公務員労働者を中心としたゼネストは、国民春闘を巨大な階級闘争としての性格を鮮明にしました。

それは私たち自身が、ややもすると陥りがちな、賃金が上がればよいというためだけの春闘、例年に見られた「春闘相場、相場づくりの民間労組のトップバッター」などといわれる表象を、克服しつつあるということです。そういう意味で、今春闘の中での炭労の闘いもパーセントや全炭鉱の先行妥結を破るなどの方針でなく、炭鉱労働者の賃金を追求したことは大きな前進といえます。

「インフレ政策阻止、生活危機突破」をスローガンとする権利闘争が、とくに四・一一ゼネストを中心に、公務員労働者のスト権奪還の要求がすえられ、国民春闘に権利闘争の背骨がしっかりと打ち立てられたことは独占と自民党政府にとって、まさに恐怖すべきことであったことは、容易に察することができます。

インフレ政策による狂乱物価、中小企業の大量の倒産（三月千八百件）と独占の肥大、集中化の一方、勤労国民の犠牲の上になお、インフレ政策の続行にしか生きのびる道を見出しえない資本主義体制維持への危機感の中で、日教組に加えられた大弾圧、教育反動化政策、刑法改悪、司法の反動化政策、靖国法案などの軍国主義への傾斜は、資本の側の当然のまき返しの攻撃であることは明らかですし、一層その牙をむきだしにしてくることは必至です。

日教組への弾圧ぶりを見ると、四・一一の当日、全国十二の都道府県で、八百八十一カ所の強制捜査が行なわれ、一万千名の任意出頭が加えられました。しかもこの弾圧が、事前にマス・コミによって流され、いわゆる鳴りもの入りの弾圧ぶりであったことはこれまでに前例がなく、特徴的です。同じ方式の第二次強制捜査と組合役員の逮捕が流されています。

一方、田中首相がぶち上げた徳目教育論（五つの大切、十の反省）、きわめつけの教師聖職論などの思想攻撃と、教頭職法の成立と見すえる必要があると思います。

第一に、今日独占資本と自民党政府が感じている資本主義体制の危機意識（そのことは所得政策の導入や、小選挙区制度の実現をはかろうとする動向に代表される）が、彼らをして民主主義の破壊、階級闘争の圧殺にかりたてていること、日教組の解体は、その作業の中心に当ること、終局的には平和憲法の改悪に向けられていることを、資本の仕打ちを、私たちは生命や新労組のスト権を対象とした屈辱的経験をさせられてきたことを思い起こせば十分だと思います。

第三に、したがって私たちは、四・一一に示された公務員労働者のスト権奪還の闘いこそ、公務員労働者の労働者宣言！として、確認するとともに、第二組合から今春闘の中で、数多くの仲間を復帰させた国労や、全逓の闘いに学ばねばなりません。

スト権奪還（平和協定破棄）、労働者宣言！私たち三池労働者の課題に共通する公務員労働者、教職員労働者のスト権奪還、弾圧粉砕の闘いと連帯し、階級闘争を階級闘争として正面からとらえ、闘って行きましょう。

▼…毎日新聞の調査によると、二十代では約半数が四四％、三十代で二九％、四十代と五十代で二三％が支持政党なしの回答。「青年たちの心をつかめ」ということか？

参議選に勝利して反動化に歯止めを

主張

七四春闘は、春闘共闘に結集する八百三十万人の労働者のゼネスト体制をもって闘い抜き、大幅賃上げの獲得と最低賃金制、社会保障、官公労働者のスト権問題について、一定の、前進した条件を勝ち取ることができました。

これで春闘のヤマ場も一応乗り越え、いまや民間単産や中小企業に働く労働者が、春闘相場をめざして到達闘争を展開している現状であります。

一方国会の動きは、社会党を中心とする金野党、宗教団体、全国民が反対する憲法違反の靖国神社法案を、田中自民党内閣は、四月十二日の衆院内閣委員会で強行採決を行なうなど、また今次春闘における弾圧攻撃などに見られるように、その反動性をむきだしにしています。

衆参両院はこの強行採決のために一時審議不能となりましたが、衆議院議長のあっせんで、二十三日以降正常となりました。

四月二十九日で会期終了となるところを、政府は、日中航空協定を二十六日に国会に上程するとともに、自民党のみの賛成で会期延長三十五日間、六月三日までの会期としました。これにともなって、参議院選挙は六月十四日公示、七月七日投票という日程が明らかになりました。

このように、参議院議員選挙の日程は目前に迫っており、闘いはいまや終盤戦を迎え、日ましにきびしさを加えております。

情勢の一端を述べますと、田中自民党内閣は、保革逆転を阻止しようと必死のかまえを見せています。この選挙で自民党が過半数を失えば、「議会制民主主義の本質は崩壊し、国民生活も重大危機に直面する。……自由社会を守り得るか否かを決する、重大な現実に直面している」と、危機感を述べ、具体策として、「自由を守る」国民運動やその組織化、広報活動の強化拡大、教育の正常化運動など大規模な活動を展開しています。

さらに企業、業界、各種団体を総結集して、ぼう大な政治献金を集め、企業、商社、各種団体を組織的に、候補者別に編成し、副社長クラスを責任者にするなど、その取り組みはかってない体制で進められています。

つきましては、全国区をめぐる全般的な情勢ですが、改選になるのは全国区五十名、地方区七十六名ですが、四月末日現在での立候補意志表示者は自民党三十六名、社会党十二名、公明党九名、共産党八名、民社党五名、無所属が七名で、合計七十七名が予定されています。つまり七十七名で五十の議席を争う、文字通りの少数激戦の選挙戦となります。総評・民間単産からただ一人推されている〝あくね登〟候補（社会党・炭労の公認）を、めざす五十の議席のなかに、私たちはなんとしても押し入れなければなりません。

現在の状況は、報道関係者の話を総合しますと、あくね登候補はボーダーラインだという判断が強く、同時に選対本部としても、各県の状況から判断しますときびしい情勢にある、としています。

炭労としては、同候補がその政治局員として、石炭政策をはじめ、今期春闘における通産大臣勧告に見られるような、その努力と成果を認め、最大の取り組みを進めているところです。

三池労組としても最終的な段階を迎えて積極的な展開を計りたいと思っていますので、皆様のご協力を得る次第です。

紙面の都合から地方区の問題については述べ得ませんでしたが、地方区の小柳勇候補、松前達郎候補とも苦戦であり、あくね登候補と合せてがんばりましょう。

自民党の反動化政策に歯止めをしその野望を粉砕するためにも、また私たち労働者・勤労諸階層の生活と権利を守るためにも、一人ひとりが総力をあげて一票を獲得するために労苦を乗り越え、そして本選挙闘争勝利をめざし前進しましょう。

× ×

組合推薦三候補

その人がらは？

あくね登候補

▼明治四十五年三月、大牟田に生れ、三池炭鉱にはいり、太平洋戦後三池労組結成。昭和二十二年より組合長七期。

▼その間大牟田市議、福岡県議を経て、二十八年全国区参議院議員。四十三年同議員に三選され現在に至る。

▼参院では社労委委員長、石炭特別委員長、商工委員、交通安全対策委員長、鉄道建設審議会委員など歴任。労働・社会保障問題に献身。

▼社会党入党は、二十一年。各級役員、中央執行委員を歴任。参院国対委員長としても手腕発揮。

▼家族は妻の節代さん(61)歳のほかに、長男正毅さん（すでに独立）と次男和毅さん（会社員）がある。不幸にして妻節代さんは高血圧症のため二度三度倒れ、いまも入院中。そのため同候補は今次男和毅さんと交代で飯もたく男世帯。かたわら妻節代さんの一切のめんどうも見ながら、病妻から返って激まされ、参院で活動している。

▼人がらの特徴は暖かさ。じん肺法の制度化に奮闘し、すすんで〝アイバング〟（眼球銀行）に登録している。

▼せめてもの趣味は、盆栽、金魚飼育、魚釣り。

▼現住所＝東京都千代田区永田町二丁目一一一、参議院会館。

小柳勇候補

▼明治四十五年一月生れ。昭和十三年東京鉄道教習所卒。二十五年福岡県総評議長。三十年国労中央執行委員長。

▼昭和三十三年参議員福岡地区選挙に当選。四十三年同七回目の当選、現在に至る。

その間運輸委員会理事、物価対策委員、九州開発委副委員長、農政議員団理事、私鉄対策委員、部落解放対策委員、社会保障制度委員、その他歴任。

▼家族は妻トミさん（62歳）のほか長男雄一郎さんと長女愛子さん（他家へ嫁し、今は佐々木姓）があり、酒はいける方。のめば自から黒田節をうたい踊り、人をおどろかす。

▼早くからのクリスチャン。趣味は油絵を描くこと。今はそれも許されぬが。著作もある一面など、まだ知られていない。

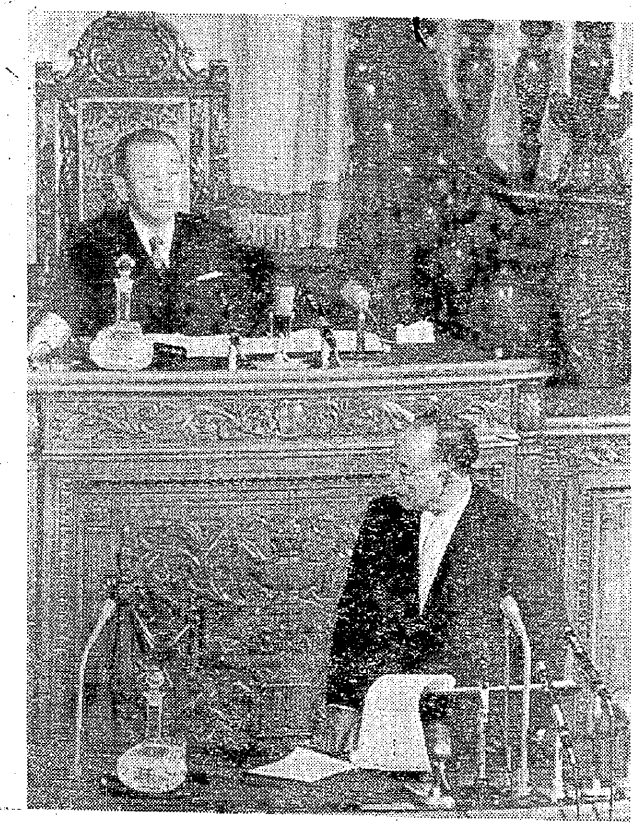
松前達郎候補

▼昭和二年二月、松前重義元衆議院議員の長男として誕生。二十五年東北大卒、電々公社勤務。三十七年工学博士。三十八年東海大教授となり、四十八年九州東海大学長。社会党入党は四十七年。

▼家族は妻節子さん（38歳）のほか、長男義昭さん(大学)、長女のぞみさん（高校）、それにまだ二歳の次女めぐみちゃん。

▼多趣味な知識人。読書、旅行、スキー、野球、アマチュア無線、自動車のスピードレース。特に野球はスイッチヒッターで、大学時代は主将として活躍した。

× ×



石炭問題で政府を追及中のあくね参議